

領域 5 インフォーマルミーティング議事録

日時：2024.03.19, 18:00-20:00

場所：オンラインで開催

出席者：領域代表・副代表・運営委員を含む約 24 名

配布資料：なし。スライドを画面共有

1. 審議	2
1-1. 運営委員の紹介	2
1-2. 領域活性化について	2
1-3. 発表のスライド英語化	3
1-4. 「計算物理」領域の立ち上げ	4
1-5. 学会の開催方式	4
1-6. サポートレター発出に関して	5
1-7. 学生優秀発表賞の審査対象	6
1-8. 領域 5 のキーワードについて	6
2. 案内	7
2-1. 招待講演・シンポジウム・企画講演	7
2-2. 招待講演とチュートリアル講演の区分け	7
2-3. 領域 5 広報用 X (旧 twitter) アカウントの開設	7

1. 審議

1-1. 運営委員の紹介

- 今期代表・副代表・運営委員の紹介が行われた。
- 次期代表・副代表・運営委員の紹介が行われた。
- 次期代表および次期副代表より挨拶があった。
- 次々期（2024.10～）の運営委員について下記の3名の紹介があり、物理学会に推薦することが承認された。
 - 高三 和晃（東京大学）
 - 山崎 裕一（NIMS）
 - 余越 伸彦（大阪公立大学）

1-2. 領域活性化について

- 運営委員から説明があった
 - 発表件数について
 - 長期的な減少傾向にある。
 - オンラインはオンサイトよりも発表が減る。
 - 学生優秀賞の対象はポスター発表のみであるが、間違っって口頭発表で申請したケースが8件あった。
 - ポスター賞の応募（正しく応募している件数）が激減（2023 秋: 22→今大会: 8）。オンラインの影響かもしれない。
 - 他領域との比較
 - 例外はあるものの、多くの領域で、オンライン形式だと減少する傾向がある。
 - 企画講演の提案
 - オンライン形式だと講演依頼がしやすいため（海外も含め）、数が多い。
 - 今後も企画講演の活発な提案を継続したい。
 - ただし、運営委員発案のものが多いたことが課題として残る。
- オンライン時の発表者の減少だけではなく、参加者数がどうなったか、も重要な視点ではないかというコメントがあった。（すぐに示せるデータは無し。また、

原理的に、参加者を領域ごとに分けて集計する事はできない) →データの有無を確認し、可能なら次回以降のミーティングで提示する。

1-3. 発表のスライド英語化

- 3月に領域代表からメールによる「推奨」のリマインドがあった。
- 学生は苦勞している例もあるが、翻訳ツールもあるので大きな負担は無さそう。という報告があった。
- 普段、領域5で発表していないためか日本語で作っている例もあった。という報告があった。
- 英語化を忘れており、リマインド時点ですでに日本語で資料を作成していたため、早めのアナウンスをお願いしたい。という意見があった。
- チュートリアル講演という趣旨から、講演者から「日本語でも良いか」という問いあわせがあった。今回はOKした。
- 趣旨やその内容に合わせてケースバイケースで日本語にすることがあってもよいのではないか。という意見があった。
- アブストラクトの英語化推奨の将来的な可能性について、コメントがあった。ハードルの高さとの兼ね合いがあるという意見もあった。一応、英語のテンプレートがすでにあることを確認した。
- 前回の議事録によると、スライド・ポスターの2点については「英語化」が決まっており、周知に課題ありとされていた（「英語化」の内容と決定の経緯については、後述）。
- 領域単位ではなく学会全体として、投稿段階など講演者に早めに伝わる段階で「英語化」を広報できる仕組みがあるといいのではないか、という点について、次期代表に領域会議で検討してもらうのが良いのではないか。という意見があった。
- （議題とは直接関係ないが、）インフォーマルミーティングの過去の議事録を可能な範囲で、領域5のホームページにアップロード（pdfなどを貼る）することが確認された。（念の為、代表から本部に確認を取ってからwebページを更新する→ミーティング後、代表から本部に確認いただいた。各領域のwebサイトは領域内で自由に変更して良いとの確認が取れた。）
- 領域の「英語化」方針は「推奨」か「原則」か？という質問が出された。推奨か原則か、でだいぶ印象が違う。→そもそも、素粒子分野などから「物理学会全体

英語化」に反対があったため、学会全体ではなく、領域ごとに決めることになっていた。2023 年秋の議事録には「以前に、スライドやポスターは原則英語にす
るとなっていたが」という記載が見られるが、実際に遡って過去の議事録を見た
ところ「原則英語と決まった」という趣旨の記載はみられない。ということが報
告された。

- 過去の議事録が不鮮明なため、暫定的に「代表・副代表および運営委員から、
一般講演については、スライドおよびポスターの英語化をお願いしています」
とする方針が承認された（「推奨」でも「原則」でもなく、「お願い」）。
- 運営委員で過去の議事録をもう一度精査し、次回のミーティングでどのような
方針にするか再度審議する。

1-4. 「計算物理」領域の立ち上げ

領域代表から、領域委員会での内容が共有された。

- 2025 年秋の立ち上げを目指す。
- 領域 1 との話し合いにより、量子計算は外すことになった。
- 領域 11 とは話し合いをして、立ち上げにポジティブな結論。
- 以下の 2 点について領域の意見を聞かれている。
 - 計算物理設置ワーキングを開始してもよいか。
 - 合同セッションの可能性。
以下のような方針を承認した。
 - ワーキング開始に賛同する。
 - 合同セッションは今のところない。

1-5. 学会の開催方式

- 領域代表から、領域委員会での内容などが共有された。
 - 一部の領域（領域 3?）から、春も対面に戻してほしいという強い要望が
あった。発表者数減少を問題視。
 - 現物理学会長の選挙時の公約で、オンライン学会を積極的に活用して国際
的な会議にしていきたいという趣旨の内容が記述されていた。
 - ポスターの発表形式変更はオンラインプログラムシステムと紐づいている
部分もあり、ポスター発表形式を変えるには参加費を上げる必要がある。

- 発表数だけでなく、参加者数の違いもみたほうがいいのか、という意見があった。(ただし、参加者については領域別の集計は無理)
- ポスターの発表形式を変えれば、オンラインポスター発表も増えるのでは、という意見があった。
- 放射光 IM では、オンライン継続希望と対面復活希望が半々くらい、という報告があった。
- 審議 1-2 のスライドに記載されている「ポスター発表の比率の望ましい範囲」の出典とエビデンスはあるのか？ → おそらく「ポスター発表というものが始まった当初、エンカレッジする意味でポスター発表を推奨していた名残ではないか」との情報が寄せられた。
- オンラインの場合にポスター発表がゼロでも、特に気にする必要はないのでは。という意見があった。
 - 例えば、オンラインではポスター発表をゼロにして、学生優秀発表賞の審査対象を口頭にするという方針に、領域として変更しても問題ないのではないか。という意見が出された。
 - その場合、審査委員の先生の都合を考えて、賞対象者をまとめたセッションをつくるなどの工夫が必要かもしれないとの指摘があった。
 - 現状の受賞枠は、ポスター発表の全講演数の 5% 程度または、発表賞への応募件数の 20% 程度となっているが、この基準も柔軟に変更していいのでは。という意見があった。
- 昔はポスター発表の裏セッションがなかったように思うが、最近是对面でもパラレルセッションがある。これは仕方がないことなのか？ → **次回以降、ポスター発表がなるべくパラレルセッションにならないよう運営委員で可能な範囲で調整することが確認された。**
- **本審議に関してはすぐに結論は出ないので、学会全体の方針も考慮しながら、引き続き意見を集約していくこととなった。**

1-6. サポートレター発出に関して

- 領域代表から、領域委員会での内容が共有された。
 - 文科省や日本学術会議などから公募されるマスタープランやロードマップ等の将来プロジェクトへ会員が応募する際、所属学会やコミュニティからのサポートレターが要求される事がある。

- これまでは日本物理学会はサポートレターには対応していなかった。
- 今後対応していこうという方針について意見を募っている。
- **メーリングリストを通じて、意見を募る、という方針が承認された。**

1-7. 学生優秀発表賞の審査対象

- 領域5の規則にある審査対象の文章がわかりにくいのではないかという意見が出された (<https://www.r5.div.jps.or.jp/student-presentation-award-policy/>)。現状：「発表内容、ポスターの見栄え、プレゼンテーション（英語可）」
- 以下に変更するという案に対して、参加者から意見を募り、承認された。
- 変更案：
 - 「1. 発表内容（研究の意義や位置づけ、研究手法・考察の妥当性等）
 2. ポスターの構成（ポスターがわかりやすく構成されているか. 目的, 方法, 結果, 考察, 結論が明確に示されているか等）
 3. プレゼンテーション (説明, 質疑応答は的確か. 異分野の研究者にも伝わるか等)」
- この案で領域代表から本部に変更依頼を提出してもらい、許可を得てから web を更新することが承認された：参考
https://www.jps.or.jp/activities/awards/gakusei_index.php の実施要綱の附則(2)

1-8. 領域5のキーワードについて

- 本来、第1キーワードを入れるべき場所に第3キーワードの超イオン導電体・イオン伝導体を入れている人がいる。当該分野の研究者に聞いたところ、いまのキーワード運用で問題ないと意見をもらった。という情報共有がなされた。
- キーワード追加は気軽にやってもいいのではないか、一方、申込件数0件が続くキーワードは削除を検討してもいいのでは、という意見があった。
- 前回のIMにて、第2キーワードに超高速現象がなくなって、応用物理学会に発表者が流出しているとの意見があった。
- **第2キーワードに、超高速現象を追加することが承認された。**
- キーワードを大幅更新した担当者（谷先生）から、現在のキーワード編成が流行りのキーワードに偏っており、流行りのキーワードではない研究を包含するキーワードが必要かもしれないという意見があった。

- 超高速現象のキーワード追加を、アナウンス・周知したほうがいいという意見があった。→運営委員で実施する。
- 応物にあるけど、日物にないキーワードを調べて、リストアップしたほうがいいのではという意見があった。→次回の IM での審議事項に追加する。

2. 案内

2-1. 招待講演・シンポジウム・企画講演

今期に開催されているシンポジウム、チュートリアル講演・招待講演の案内が行われた。

2-2. 招待講演とチュートリアル講演の区分け

- 区分分けについて説明が行われた。
- なるべく、大会申し込み前に、運営委員に相談してほしい旨の説明があった（締切 4 月 20 日頃）

2-3. 領域 5 広報用 X（旧 twitter）アカウントの開設

- https://twitter.com/jps_r5div
- 日本物理学会が定めるソーシャルメディア(SNS)運用規定に則り運用開始との報告があった。
- 領域 5 の web ページに X アカウントの情報を追加することが確認された。